



古川美術館コレクション展
二つのまなざし
— 日本画と洋画

2026.3.13[金] ▶ 5.10[日]

●前期: 3月13日(金) ▶ 4月12日(日) ●後期: 4月14日(火) ▶ 5月10日(日)

この春、古川美術館・分館 爲三郎記念館では、古川美術館コレクションから厳選した作品による二つの展覧会を開催いたします。

古川美術館では、「二つのまなざし—日本画と洋画」として、近代の日本画・洋画界を牽引した作家による名品を5つのテーマに沿ってご紹介。日本画からは、伝統を継承しつつ新たな表現に挑んだ横山大観、竹内栖鳳、上村松園、伊藤小坡ら。洋画からは、写実から内面表現まで多彩な世界を描き出した和田英作、藤田嗣治、海老原喜之助、東郷青児、鬼頭鍋三郎、伊藤清永らの作品を展覧します。

〈お問い合わせ〉

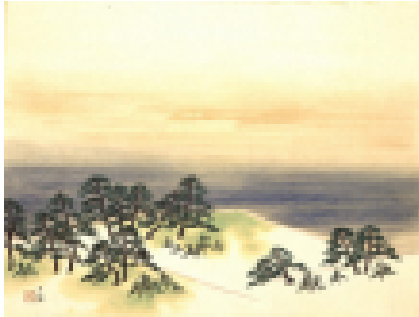
公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館
〒464-0066 名古屋市千種区池下町2-50 / TEL 052-763-1991 / FAX 052-763-1994
担当学芸員 山内綾子 (mail: a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)
URL: <http://www.furukawa-museum.or.jp/>

本展は古川美術館の所蔵品から5つのテーマごとに作品を選出し、さらに、前期・後期で約半数の作品を入れ替え、異なる技法、異なる感性で描かれた作品が一堂に会します。たとえ技法・感性が異なっても、そこに流れるのは一つの時代を生きた画家たちのまなざしだと思います。それぞれが捉えた人物、風景、季節、時代の空気は、今のなお私達を魅了してやみません。筆がつむいだばのまなざしと記憶をお楽しみ下さい。また、本展は古川美術館のコレクションの名品に出会える良い機会となることでしょう。

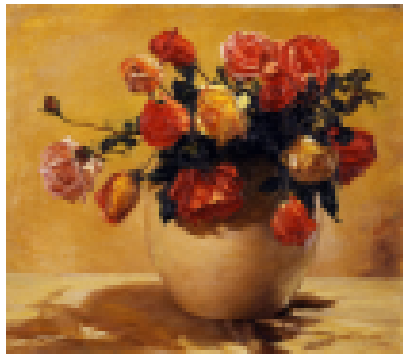
第1章：近代日本画の黎明と西洋画の受容 — 日本画の革新、そして西洋画との出会い —



竹内栖鳳
「新荷雨洗」



横山大観「海暎」1940年



和田栄作「薔薇」1939年

明治以降、日本の画家たちは、西洋からもたらされた写実表現や油彩技法と向き合いながら、新たな可能性を探りました。

日本画では、横山大観・竹内栖鳳・山元春挙らが伝統的な美意識を保ちつつ、西洋の写生法や遠近表現を柔軟に取り入れ、線と装色を生かした独自の表現を切り拓きました。

一方、油彩画では、和田英作、藤田嗣治、海老原喜之助、鬼頭鍋三郎、岡田又三郎らが国際的な美術動向を吸収し、のびやかな筆致や量感豊かな造形、そして海外経験を基軸に、新しい洋画表現を日本にもたらしました。彼らは欧州の最前線を受け止めるだけでなく、その体験を「日本人が描く意味」へと昇華させ、独自の画風を築いていきます。

本章では、こうした日本画・洋画双方の画家たちを同じ空間に紹介し、西洋からの刺激を受けながら、各々がどのように自らの画境を切り拓いたのかをご覧ください。

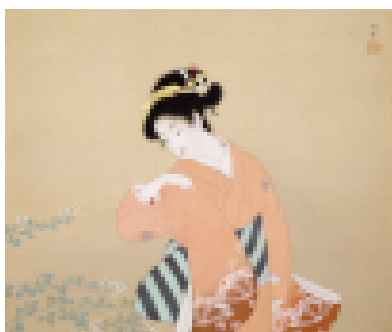
●出品予定作品

| | |
|----------------|-----------------|
| 前期 横山大観「海暎」 | 後期 横山大観「霊峰不二」 他 |
| 前期 竹内栖鳳「新荷雨洗」 | 後期 竹内栖鳳「松魚」 |
| 前期 山元春挙「清流香魚図」 | 後期 山元春挙「溪瀑香魚図」 |
| 前期 藤田嗣治「婦人像」 | 後期 藤田嗣治「猫」 |

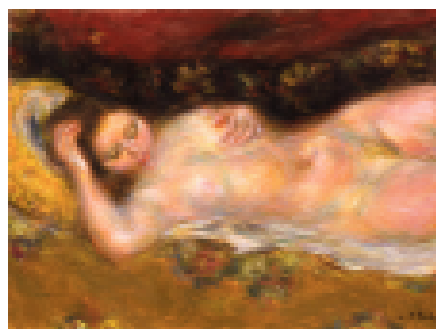
通期 和田栄作「薔薇」
通期 海老原喜之助「馬市」
通期 鬼頭鍋三郎「バレリーナ」
通期 岡田又三郎「ともしび」

第2章：女性美の系譜 — 美人画から裸婦像まで その表現とまなざし —

女性像は、日本画・洋画を問わず、画家の感性や時代の価値観を映す重要なテーマでした。伊藤小坡・伊東深水・上村松園らが描く美人画には、気品に満ちた所作や装いが細やかに表され、女性への憧憬や精神性がにじみます。一方で、伊藤清永や鶴岡義雄ら洋画家の裸婦像は、光と量感を重視し、身体そのものの美と存在感に迫ります。日本画の洗練された線と色、洋画の肉体描写の力強さ——それぞれの画家の“まなざし”の違いに触れることで、美の概念がどのように広がり、多層化していったのかをご覧ください。



上村松園「初秋」1943年



伊藤清永「裸婦」1960年

●出品予定作品

| | |
|---------------|---------------|
| 前期 伊藤小坡「慈愛」 | 後期 伊藤小坡「浴後美人」 |
| 前期 伊東深水「緑陰」 | 後期 伊東深水「ほたる」 |
| 前期 上村松園「時鳥一声」 | 後期 上村松園「初秋」 |

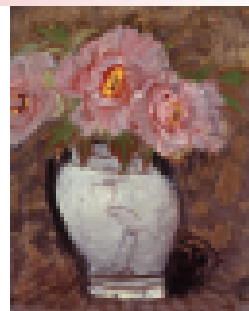
通期 伊藤清永「裸婦」
通期 鶴岡義雄「裸婦」
通期 藤井勉「モルゲンロート」

第3章：花 — 命の象徴 — 一花に託された生命の讃歌 —

絵画において花は季節を語り、生命の力を象徴する題材として長く愛されてきました。杉本健吉の華やぎ、前田青邨の格調高い気品、中川一政の激しい筆触、森田りえ子の現代的で鮮やかな色彩——同じ“花”を描きながら、そこに込められた感情や美意識は多彩です。本章では、画家がいかにか花の生命の輝きや一瞬の美を留めようとしてきたのかを紹介します。前期・後期の作品入れ替えにより、牡丹・薔薇・向日葵・菖蒲・紫陽花など、四季を巡る花の表情を楽しむことができます。

●出品予定作品

| | |
|-----------------|-----------------|
| 前期 杉本健吉「牡丹」 | 後期 杉本健吉「牡丹図」 |
| 前期 中川一政「向日葵と梨」 | 後期 中川一政「バラ」 |
| 前期 森田りえ子「花菖蒲・彩」 | 後期 森田りえ子「紫陽花・宙」 |
| 前期 前田青邨「薔薇」 | 後期 前田青邨「牡丹」 |



杉本健吉「牡丹」

第4章：心象と旅 — 内面と異国の風景 精神性と異文化への憧れ —

20世紀には、世界への旅や異国文化への関心が画家たちの創作を大きく刺激しました。

青山義雄や新道繁、野口彌太郎、鬼頭鍋三郎らが描いた地中海やヨーロッパの風景は、単なる旅の記録ではなく、色彩や形態に画家の内面的な憧憬や感情が映し出されています。旅を通して触れた異国の光景が、どのように心の世界と響き合い、独自の風景表現へと変化していったのか——その軌跡をたどります。

本章では、異国の地の風景を通じて画家が自身の感情を見つめ、形にした“心象の風景”をご紹介します。

●出品予定作品

| | |
|---------------------|------------------|
| 前期 青山義雄「地中海」 | 後期 青山義雄「地中海岸 南仏」 |
| 前期 鶴岡義雄「枯葉」 | 後期 鶴岡義雄「マドモアゼル」 |
| 前期 伊東継郎「イタリア 城のある景」 | 後期 中根寛「塔のある風景」 |

通期 鬼頭鍋三郎「サン・クルーの丘」
通期 新道繁「夾竹桃咲く家」
通期 熊野俊一「曇り日のカンヌ」
通期 野口彌太郎「港」



鬼頭鍋三郎「サン・クルーの丘」

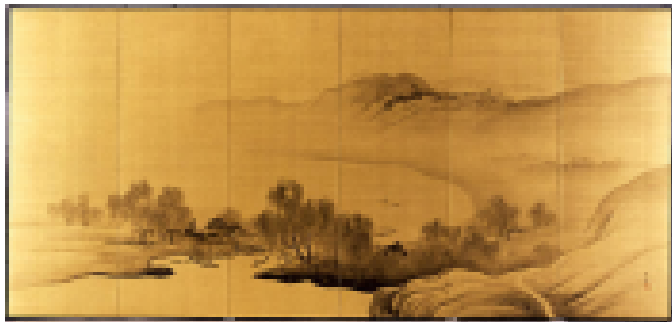
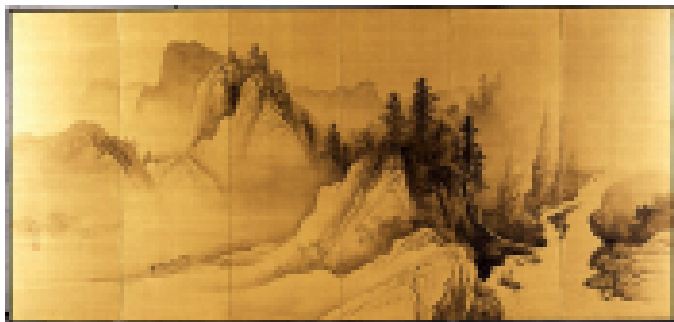
第5章：自然礼讃 — 四季と風景の詩 — 日本人の自然観が生んだ風景のこころ —

日本では、自然は古くから絵画の重要な主題であり続けてきました。

日本画家の川合玉堂は、四季の移ろい、静寂の中に息づく生命、光の変化など、日本の自然への深い共感を端正な筆致で描き上げた画家です。

また、洋画家の牛島憲之の靡げな情緒を湛えた風景や、向井潤吉が捉えた古民家と季節の気配など、小品ながらもそれぞれが自然との静かな対話を示し、“自然礼讃”の世界をやさしく補完しています。

本章では、日本人ならではの感性に焦点を当て、自然を“見る”のではなく“感じる”ことで生まれる、詩情豊かな風景画の世界を紹介します。



川合玉堂「秋山溪聲・湖畔夕照」

●出品予定作品

| | |
|--------------------|-------------|
| 通期 川合玉堂「秋山溪聲・湖畔夕照」 | |
| 前期 川合玉堂「春峡萬弦」 | 後期 上村松篁「野月」 |
| 通期 牛島憲之「雨明る沼」 | |
| 通期 向井潤吉「武蔵野の春」 | |

●**展覧会概要** ※ご予約・お問い合わせ 052-763-1991 (開館日 10時～17時)

展覧会名 古川美術館コレクション展 **「二つのまなざし — 日本画と洋画」**

会 期 **2026年3月13日(金)～5月10日(日)** (記念館に同じ)

前期 3月13日(金)～4月12日(日)
後期 4月14日(火)～5月10日(日)

休 館 日 月曜日※但し5月4日(月・祝)～6日(水・振休)は開館、7日(木)は休館

観覧時間 午前10時～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)

会 場 **古川美術館**

主 催 公益財団法人 古川知足会

後 援 愛知県教育員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、CBCテレビ、スターキャット株式会社

観 覧 料 2館共通券 大人1200円、高大生500円、中学生以下無料

●**関連イベント**●

① **学芸員によるギャラリートーク** 予約不要

日 時：3月13日(金) / 3月25日(水) / 4月18日(土) 各日14:00～

会 場：美術館展示室

参加費：無料 ※別途入館券必要

② **学芸員による美術講座「屏風の世界」** 要予約

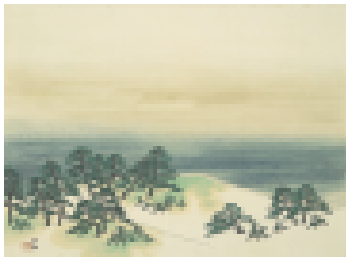
記念館の屏風展示に合わせて、屏風の歴史、美術史上での役割や名品などについてお話しします。

日 時：4月30日(木)

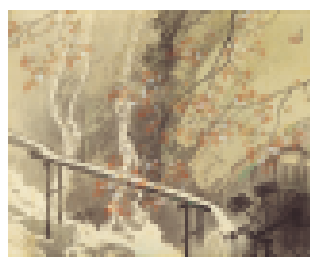
講 師： 山内綾子(担当学芸員)

会 場：美術館3F 特別展示室 13:30～

●**広報画像** 掲載をご希望の方は、学芸課 山内綾子まで画像番号をお知らせください。



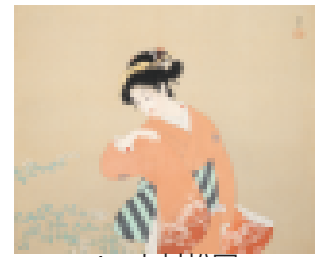
gazou1:横山大観「海嘯」



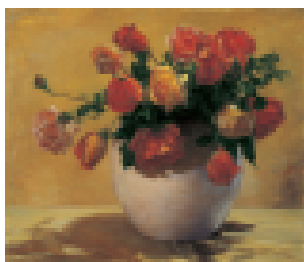
gazou2:川合玉堂「春峡萬弦」1941年頃



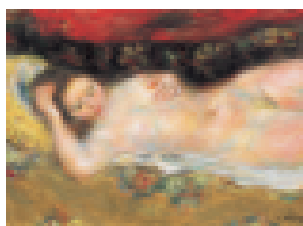
gazou3:竹内栖鳳「松魚」
※後期展示



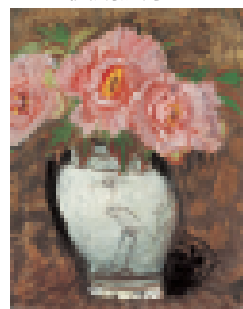
gazou4:上村松園「初秋」1943年



gazou5:和田英作「薔薇の図」1939年



gazou6:伊藤清永「裸婦」1960年
※通期展示



gazou7:杉本健吉「牡丹」
※前期展示



gazou8:鬼頭鍋三郎「バレリーナ」

gazou1:横山大観「海嘯」1940年 ※前期展示
gazou2:川合玉堂「春峡萬弦」1941年頃
gazou3:竹内栖鳳「松魚」 ※後期展示
gazou4:上村松園「初秋」1943年 ※後期展示

gazou5:和田英作「薔薇の図」1939年 ※通期展示
gazou6:伊藤清永「裸婦」1960年 ※通期展示
gazou7:杉本健吉「牡丹」 ※前期展示
gazou8:鬼頭鍋三郎「バレリーナ」